各議員のQRから一般質問の録画中継をご覧いただけます。

文責はいずれも本人です。

●スポーツを推進する施策について ●スポーツ振興とプロチーム等の誘致について ●スポーツ誘致による観光浮揚について

山内　貴史（新波クラブ）

Q 未来の宝である子供たちにとって一流技術の選手を目にすることはこの上ない学習の機会であると思うが、行政はどのような見解か。

教育次長　市民がスポーツのすばらしさ楽しさに触れる機会を作ること、スポーツ合宿の誘致などで一流選手のプレイを市民が目にすること、特に子供たちが体感して夢を持つことは非常に有意義であると考えている。

Q 直近では、プロ野球独立リーグの「北九州フェニックス」の合宿が今年3月に10日間、7月には公式戦3連戦が赤坂球場にて開催されたが、経済効果も含め平戸の地を選択してくれたことに行政はどう感じたのか。

教育次長　多くの選手やスタッフ皆様に平戸市合宿へ参加していただいての宿泊、それに伴う飲食など、市内で多く消費していただき大きな経済効果があったものと考え、選択いただいたことは非常に感謝している。

Q 次年度以降、指定管理者を含め、合宿等誘致のためにどう取り組むか。

教育長　市民にレベルの高いスポーツに触れる機会の提供、スポーツのすばらしさ、楽しさに対する理解を深めるため今後は指定管理者と情報を共有して協議し、誘致活動を展開する。北九州フェニックスにも直接足を運び、引き続き合宿等に来ていただくようお願いしたい。

Q スポーツ誘致による観光浮揚について、教育委員会及び文化観光商工部は、より一層の対策や支援を講じる必要性があると考えるが見解は。

教育長　担当所管課や関係課と十分協議を行い、市全体の取組として受入体制を整え、体育協会、観光協会、商工会議所等と連携し事業を展開することで、球団、市民、地域、全てによい効果が生まれる、経済的な効果も含め、市民に寄与する部分が大変大きいと考えられる。

文化観光商工部長　平戸市コンベンション開催事業費補助金を活用した誘客をしているところである。本市には大型宿泊施設もあり、一定の集客数に対応することも可能。多くの関係者の方が宿泊することで観光消費の増加が見込まれることから、スポーツ合宿や各種イベントなど支援による観光誘客に今後も努めていきたいと考えている。

●高齢化及び人口減少がもたらす影響について ●医療現場の人材確保について ●二元代表制の役割と捉え方について

竹山　俊郎（平戸市民クラブ）

Q 高齢化及び人口減少がもたらす影響について尋ねる。人口減少によって地方交付税、税収など歳入の減少が見込まれる。全般的に行政サービスの低下を招かないような施策を具体的に示す必要があると思うが、現在、財務部を中心に全庁的な取り組みはどのようなことがなされているのか。

市長　歳入に応じた歳出とすることで、収支均衡を継続するため、歳入では、市税等の収納率の向上やふるさと納税をはじめとした自主財源の確保、歳出については、業務委託や補助金等に関する指針に基づく見直し、既存事業の縮小、廃止など全般にわたって見直しを図ることとしている。

Q 医療現場の人材確保については最重要課題として市長を先頭に、医師確保の取り組みがされているが、県の対応および今後の見通しはどうか。

市長　知事面談においては、県内における医師偏在の実態を説明。押淵名誉院長からは、これまでの病院独自の医師確保の取り組みや医師の高齢化の現状など、医療現場の切実な実態についてご意見を述べていただいた。今回の要望に対する回答は従来から一歩前進したのではないかと感じた。

Q 二元代表制では、執行権者、議会のどちらが欠けても成り立たない関係にある。双方が適度な距離と関係性を保ちながら市政推進にまい進すべきと思うが、市長の考えはどうか。議会が行政の後押しをする、まさに行政と議会は両輪のごとくという言葉がふさわしい事例ではないか。

市長　二元代表制については、まさにご指摘のとおり。この制度の特徴は、住民を代表する首長と議会が相互の抑制と均衡によってある種の緊張関係を保ちながら、その地方自治体の運営の基本的な方針を決定し、その執行を監視し、積極的な政策提案を通して政策形成の舞台となることが本来のあり方であると考えている。従って、両者は市民の幸福実現という同じ方向に向かって進む運命共同体である。そのことをしっかりと胸に刻み、お互い切磋琢磨しながら市政運営にまい進していきたい。

●人口減少が進む状況下での行政の取り組みについて ・高校魅力化の取り組みについて ・消防団員の確保について ・対応策に対する財源確保について

松本　正治（大地の会）

Q 少子高齢化、人口減少、厳しい状況に向かっている中で行政がどこを向いて取り組んでいるのか市長に尋ねる。

市長　第二次総合計画の重点プロジェクトである高校魅力アップによる学生確保対策に対し公営塾の設置に取り組んできたが、講師の確保や部活動とのすみ分けなど、運営体制の協議が整わず、設置を断念した。その他の取り組みとして平戸高校において生徒が自主的に課題を設定し、情報収集や整理分析能力の育成を目的とした総合的な探求の時間に対し支援をした。私自身も講話を行い、平戸に対する理解や関心を深めることができるよう取り組んできた。また、市ができる支援の協議をおこなっていたところ、猶興館高校において、令和5年度から大学進学重点学科として、文理探究科を新たに開設することから、生徒確保の呼び水として支援の相談があり、市内3校と協議の結果、令和4年度から新たに市内高等学校支援事業として市内高校に通学する生徒が受験する検定料に対する支援制度を設けた。今後についても市内高校の魅力向上の取り組みを検討していく。

Q 消防団男性団員の確保が厳しくなる中、5～6年先を見越して女性団員の確保を目指すべきだと思うが。

消防長　今後団員の確保は非常に厳しい状況にあり、女性団員の確保は重要な部分だと思っている。今後は女性団員の入団の促進活動を行う。分団においても、今までは男性団員をメインに入団を依頼していたと思うが、分団長を通じ、地区分団で積極的に女性についても入団促進をしていただくよう取り組みをする。

Q 高校魅力化の取り組みの応援や、女性消防団員対応としてのトイレ等施設整備の財源として、ふるさと納税を活用できないか。

財務部長　寄附者がその寄附先を選ぶにあたって、お礼の品から選ぶ選び方と、寄附の使い道から選ぶ選び方の2通りがある。本市の実績としてクラウドファンディング型の取り組みもあり、今後ともそのような可能性は十分考えられると思う。

●市政懇談会において市民から提案された各施策について（農業振興） ●市内小中学校のプールの設置（利用）状況と維持管理費及びシーライフやB&Gの利用状況は

松尾　実（平戸市民クラブ）

Q 市政懇談会において、市民の方々から農業振興について質問が出ていたが、市長が考える今後の農業振興の取り組みは。

市長　農業就業人口の減少に伴い、地域農業の担い手不足が課題である。本市では、アスパラガスなどの地域振興品目における新規就農者の確保、育成に努めている。Uターン並びに移住される新規就農者に対し、引き続き平戸式もうかる農業実現支援事業で支援し、県や農協などの関係機関と連携した就農後のフォローアップの強化に努める。また、経営安定に向けた生産体制の取り組みなども支援し、新規就農者が産地を盛り上げていく人材となるよう支援する。

Q 若い就農者の支援だけでなく、現状は就農者の高齢化、中山間地域の耕作放棄地、鳥獣被害の問題など多岐に渡る。そうした中に、ドローンを活用した農地調査の有効な進め方を今後、検討されてはいかがか。

農林水産部長　本年7月に実施要領の見直しがあり、耕作されている農地については、ドローンなどの利用が可能となった。しかし、遊休農地に関しては、これまでどおり原則、目視での現地確認が必要。今後は、労力の省力化、時間の短縮など安全で効率的に実施できる方法を検討したい。

Q 市内の小中学校のプールの設置状況は、ある学校と無い学校（もしくは、あるが使用できない）があるが現状の設置状況はどのようになっているか。

教育長　小学校、15校中10校に設置しているが、使用可能なプールがある学校は6校だけ。中学校は、8校中1校に設置しているが、使用していない状況。

Q 設置されていない学校は、公共施設のプールを利用して対応しているとのことだが、教育委員会は今後の維持管理費の問題等や先生方の負担軽減、児童生徒の泳力向上の面などを考える必要があると思うが。

教育次長　施設の老朽化や平戸市公共施設等総合管理計画の基本方針等を考えると、シーライフひらどやB&G海洋センターを引き続き利用するのが効率的・効果的である。